

出穂早い！猛烈な暑さが今後も続く予報！ 出穂・開花期は水を最も必要とする時期！遅れずに花水を！ きめ細やかな水管理で猛暑を乗り切ろう！

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト本部

◎ 生育状況

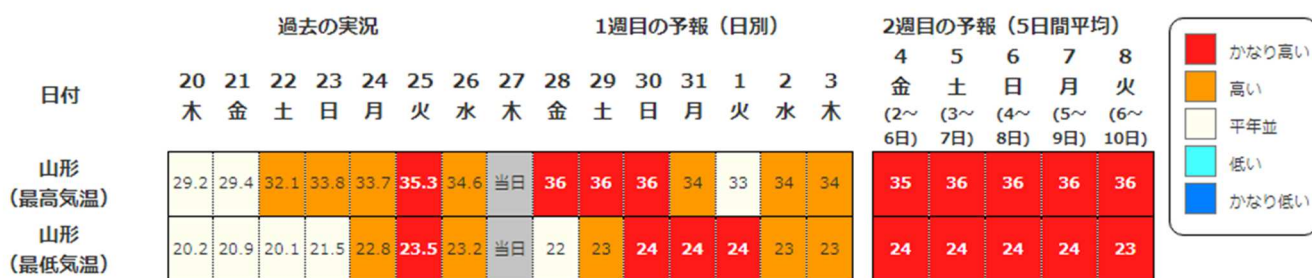
農業総合研究センターの調査によると、出穂期は平年より「かなり早い～早い」予想です。

「はえぬき」予想出穂期（7月27日現在、農業総合研究センター調べ）

場所	予想出穂期	平年出穂期	平年差
山形市みのりが丘	7/31～8/1	8/3	2～3日早い
鶴岡市藤島	7/28～29	8/2	4～5日早い

◎ 今後の気象

7月27日発表の1か月予報（7月29日～8月28日）では、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、2週間気温予報によると、猛烈な暑さが今週末以降も続くと予想されています。



(気象庁HP)

◎ 当面の技術対策

(1) きめ細かな水管理の徹底

- ・イネは、受精・開花期に特に水分を必要とするので、出穂を確認したら、穂揃期までは、湛水状態を保ちます。
- ・穂揃い後は、間断かん水や飽水管理に移行して根を健全に保ちましょう。水を張りっぱなしにすると根の機能が低下して、登熟に悪影響を及ぼします。
- ・特に、猛暑条件下では根の機能低下が懸念されるので、穂揃後は田んぼに水を張りっぱなしにせず、きめ細かに間断かん水、飽水管理を徹底して根の機能維持を図りましょう。



図1 飽水管理の様子

飽水管理

湛水をせずに土壌を常に湿潤状態に保つ水管理のこと。田面に水はなく、作溝や足跡に水がたまった状態になっている。

(2) 高温対策

- ・ 出穂後10日間の日最高気温が高いほど胴割粒の発生が高まり（図2）、出穂後6～10日頃の高温が最も胴割粒の発生に影響します（図3）。
- ・ また、出穂後20日間の平均気温が28℃以上、最低気温が24℃以上と高い場合、イネの消耗が激しくなって白未熟粒の発生が増加します（「はえぬき」H11新しい技術情報）。
- ・ 気温の低い朝夕に用水を入れ替えたり、飽水管理を行って、イネ群落内の水温や地温を下げるように管理しましょう。

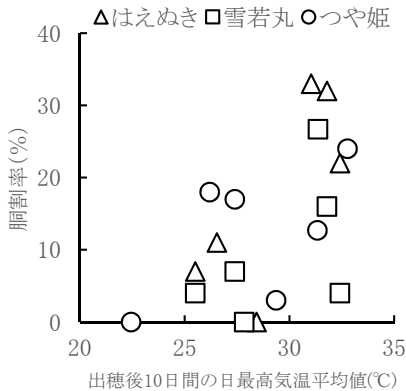


図2 出穂後10日間の日最高気温平均値と胴割率との関係(R3年 農総研セ)

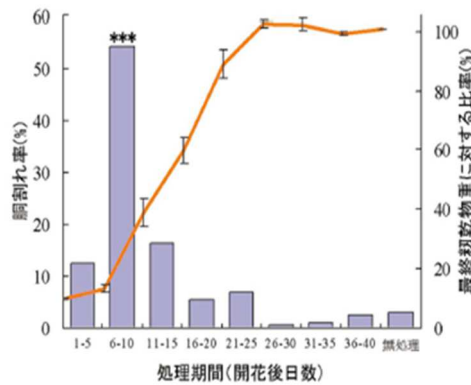


図3 高温処理した水稻玄米の胴割れ率と籾乾物重の推移 (H16年 東北農研)

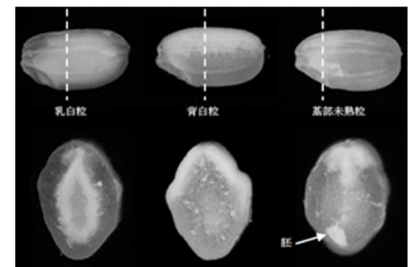


図4 乳白粒と背白粒及び基部未熟粒の外観と断面（森田原図、水稻の高温登熟障害対策技術、H25年、九州沖縄農業研究センター）
※下段はそれぞれ上段の点線部分の切断面（横断面）

(3) 病虫害防除の徹底

①斑点米カメムシ類対策

- ・ 斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。出穂状況をよく確認し、穂揃期及び穂揃期7～10日後の2回の基本防除を徹底しましょう。
- ・ 無人ヘリコプター等による防除を計画しているところでも、防除時期が合わない場合には、個人防除を実施します。
- ・ 水田内にイヌホタルイやノビエが多く残っている場合は、斑点米カメムシ類の水田内での発生が多くなるので注意してください。
- ・ 出穂前後の草刈りは、斑点米カメムシ類の水田侵入を促し、斑点米の発生を助長するので、原則行わないようにします。やむを得ず草刈りを行う場合は、水田の薬剤防除計画に合わせて実施してください。

②いもち病対策

- ・ 7月20日に病虫害防除所から穂いもちの注意報が発表されています。出穂直後の穂は、特にいもち病に感染しやすいことから、穂いもちの防除は、穂孕後期と穂揃期の2回防除を基本とします。葉いもちの発生が多いほ場や上位葉で発生が見られる圃場では、治療効果のある薬剤に変更して防除を行います。

農作業事故と熱中症に十分注意してください！

休憩をまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！